

地球社会基盤学専攻	研究分野	環境リスク制御工学	Lab. ID GC15
研究室Webサイト	http://env.w3.kanazawa-u.ac.jp/risk/		
研究課題の概要			
<p>安全・安心な水利用の実現のため、人の健康影響の観点から重要な諸課題に取り組んでいます。研究室では微生物リアクターによる水質浄化やヒト細胞を用いた水の毒性評価など、ミクロな生き物の力を利用して研究を行う一方、地元の下水处理場からアジア各国の河川まで、どこへでも出かけて現地調査を行う等、マクロな視点も大事にしています。近年は、水環境中の薬剤耐性遺伝子の起源と動態に関する研究や「永遠の化学物質」と呼ばれるPFASの処理や監視に関する研究に注力しています。研究のキーワードは、下水疫学、薬剤耐性、膜ろ過プロセス、未規制化学物質、アジアの水環境です。詳しくは研究室のウェブページをご覧ください。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針, 具体的なカリキュラム, 研究室での活動等			
<p>研究室では、卒業研究や学位論文を通じて、工学者・技術者・研究者としての素養を身に付けることを目指します。技術者・工学系研究者に求められるのは、科学的知識を応用して人の役に立つことです。工学者・技術者・研究者としての素養とは、次のことをいいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 客観的に信頼できる情報とはなにか、を理解する能力 2. 論理的思考に基づいて、収集した情報・データから目的とする情報を得る能力。また、その逆。 3. 得られた情報・データを応用して、目的を達成するための方法を提案する能力 4. 環境工学者としての教養 <p>ゼミ・ミーティング: 研究グループごとのミーティング - 隔週 全体ゼミ - 年度毎の企画内容によって異なる, 合同ゼミ(水環境工学と) - 月2回程度 飲み会 - 適宜(だいたい2-3カ月に1回程度)</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>日本人も留学生も同じ部屋で机を並べて、実験や研究においても互いに協力しながら、国や言語のちがう仲間と雑談もしつつ、居ながらにして(楽しく)国際感覚を養うことができます。これまでに、中国、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、インド、スリランカ、バングラディシュ、パキスタンからの留学生を受け入れてきました。また、同じ環境工学講座の他の研究室と共同で実験やゼミを行っていることもあり、他の研究室との交流も活発です。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>国内市場規模が限定的になるこれから、官民とも海外でのインフラ整備に関わる機会が増えてきます。そのとき、修士号・博士号を持っているかどうかで、ビジネスパートナーや職場での評価も大きく変わってきます。本研究室では、留学生を積極的に受け入れて日本人の学生も協働して先進的な研究テーマに取り組んでもらうとともに、できるだけ現地調査や国際会議を通じた海外経験の場を用意したいと考えています。あと3年間の大学・大学院生活、せっかくなら大学院でしかできない経験を、本研究室でしてみませんか？(研究室見学はいつでも歓迎です。)</p>			
研究室連絡先メールアドレス	rhonda *at* se.kanazawa-u.ac.jp, hiroeyh *at* kanazawa-u.ac.jp		